

# みとおし

## 一牛枝肉・豚枝肉・鶏卵・食鶏一

### 今月の市況

#### 強含みに推移

#### 牛枝肉

大阪食肉市場での3月からの1日平均と殺頭数は、3月254頭、4月282頭、5月に入ってから296頭と増加し、価格も3月以後枝肉1kg当り365～380円と弱含みを続けている。今後も横バイを続けるものと考えられるが、これから産地は、農繁期をひかえ5月中に売りいそぎされているので6月から入荷量の減少が予想され価格は少々上昇、又は強含みに推移するものと考えられる。

#### 弱含み

#### 豚枝肉

3月から枝肉相場は280円～285円と横バイを続けているが、全国的に6月頃から8月までの出荷予定頭数は、農林省統計調査部の調査では130万1千頭と前年同月に比較して20万頭（対前年同期比18%増）と大巾に上廻っているため、6月頃出荷頭数は増加することが予想され、しかも輸入豚肉3,700tを6～7月にかけて放出される予定であるのでこれから夏場に向かい加工筋手あて買いはあるが、弱含み、またはやや値下がりするものと思われる。

#### 弱もちあい

#### 鶏卵

4月中旬から5月中旬にかけて大阪市中央卸売市場一級品の鶏卵相場は、3月上旬よりkg当り55円～60円と大巾な安値をつけ155円～160円となった。これは産卵期であると共に秋ビナ産卵に入ったためであり、6月に入れば産みづかれもあるが、しかし昨年秋ビナは大巾に飼養羽数が増加しているため今後生産量の増加が予想されるので、価格は弱もちあい、または値下がりするものと思われる。

#### 弱含み

#### 食鳥

売れ行き不振にかかわらず出回りは相変わらず多く、価格は低迷をつづけている。今年に入り、採算割れの価格が続く飼養羽数も減少しているため出回りもへってくると思うが、飼育状態が大型化しているため入荷変動がなく、全般に弱含みで6月いっぱいを通すであろう。

#### サイレージ材料の水分

このところ雨が少なく、サイレージを作るのによい条件である。サイレージ作りで問題は材料の水分含量であるが、今なら1日天日乾燥するとどんな水分の多いものでも丁度よい状態になり、栄養収量も高い。

普通、材料の水分含量は70%といわれているが、もっとくわしくいうと、直径2m以内の小型サイロでは70～75%、大型サイロなら65～70%ぐらいがよい。そのメヤスはマメ科なら6時間、イネ科なら3時間ぐらいの乾燥である。

#### 梅雨にそなえた鶏舎の対策

これから梅雨に入ると雨が多くなる一方だ。鶏舎では連日の雨で舎内が浸水したり湿潤にならないように排水施設を完全にしておく事が大切である。その為、なるべく早く鶏舎の周囲に土盛りしたり、運動場に傾斜をつけたりしておく。

傾斜や運動場がジメジメしていると病菌の繁殖を助長するばかりでなく、舎内がよごれ、むれたりする。また鶏卵までよごれ、卵値を低下させるので注意すること。